

## 「交互接種」7割で発熱でも抗体価は高め

米ファイザー製の新型コロナワクチンを2回接種し、3回目に米モデルナ製をうつ「交互接種」について、厚生労働省の専門家部会は18日、副反応とみられる症状の中間報告を公表した。37.5度以上の発熱が約7割でみられた一方、感染を防ぐとされる抗体価はファイザー製を3回うった場合より高かった。

交互接種後の症状や抗体価が国内データで示されるのは初めて。副反応は3回目にモデルナを接種した医療従事者437人の接種後1週間以内の報告を分析した。3回目は2回目までの半分の量をうつ。

結果は、3回目がモデルナ製では37.5度以上の発熱は68.0%（ファイザー製は2626人で39.8

%）。20代は81.6%だが、60代以上は46.7%と若いほど多かった。接種部位の痛みなどは93.8%（同91.6%）、だるさは78.0%（同69.1%）、頭痛は69.6%（同55.0%）だった。一方、3回目接種後の抗体価はファイザー製よりもモデルナ製のほうが高い傾向があった。抗体価は統計学的に意味のある差で、ほかの研究からも感染を防ぐ効果が高いとみられるという。

調査をまとめた順天堂大の伊藤澄信客員教授は「（モデルナは）抗体価の上昇と副反応の頻度は高いが、解熱鎮痛薬の使用や病体に差はない。どちらのワクチンを使うかは、効果の期待と副反応のバランスの問題だと思う」と話した。

（市野塊）

ファイサー2回十モデルナ